

4. 小学校国語科の新しい授業の構想と展開

小 森 茂

1. 子供たちのよさや可能性を生かす——個に応じた学習指導

小学校教育では、子供たち一人一人のよさや可能性を生かすことを教育の根底に捉え、子供たちが社会の変化に自分らしく主体的、創造的に生きるための資質や能力を育成することがなによりも大切である。それは子供たちのよさや可能性を存分に生かすための「個に応じた指導」の実現を国語科の授業の根底に捉えることである。その具体化のためには「個に応じた指導」の拠り所を押さえながら、日々の国語科の学習指導を構想し、展開することが必要である。

まず、「個に応じた指導」については、学習指導要領の総則の第1には、次のように示されている。

学校の教育活動を進めるに当たっては、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。（傍線部は、引用者。以下、同じ）

これからの小学校教育では、急激な変化が予想される社会に、なによりも自分のよさや可能性を発揮しながら、自分らしく主体的、創造的に対応できるための資質や能力の育成が大切である。その実現のためには、子供たちが自ら興味や関心をもったり、自分で主体的に考えたり、意欲的に調べたり、自分らしく工夫して表現したりするよさや可能性をどんどん認めたり、支援したりすることが必要である。こうした資質や能力を育成することが、「基礎的・基本的な内容の指導を徹底し」、「個性を生かす教育」（以下、本稿では、「個性を生かす教育」と「個に応じた指導」とを同義的に使用する。）を具体化することでもある。

これまでの、ややもすると「個に応じた指導」とは、学習指導の方法的な位置付けや課題として取り上げられる傾向があったようであるが、これからの小学校教育の目的的なものであるという考え方に立つことが大切である。この意味で、子供たちの自ら学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力、行動力などを学力の基本とする学力観に立つ国語科の授業では、「個に応じた指導」を基本とする新しい学習指導観の構想と展開が必要である。

これに関して、学習指導要領の総則の第4の「指導計画の作成に当たって配慮すべき事項」では、以下のように示されている。

各教科等の指導に当たっては、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童の実態等に応じ、個に応じた指導など指導方法の工夫改善に努めること。

どの子供たちにとっても、自分のよさや可能性を存分に発揮しながら、自分らしく「学習内

容を確実に身に付ける」ことが大切であり、それが子供たちにとって基礎的・基本的な内容の指導を一層重視することである。その実現のための学習指導の形態としては、一斉指導、グループ指導、個別学習から相互学習、単元学習論などを含めてさまざまな学習形態が考えられるが、その目的は、子供たち一人一人が自分らしく「学習内容を確実に身に付ける」ことである。

しかしながら、従来の学習指導では、ややもすると、どの子供たちにも一様に学習内容や方法を教えたり、理解させたりすることが目的となり、そのために有効で、効率のよい学習指導の形態を追究するという傾向も散見されたようである。

これからの国語科の授業では、子供たちが自分のよさや可能性を存分に発揮しながら、自分らしく「学習内容を確実に身につける」ための「個に応じた指導」として工夫改善をすることが大切である。そのためには、主に・個に応じた教材研究、・個に応じた学習指導計画、・指導と評価を生かした学習指導案の工夫が必要である。

2. 子供の側に立つ国語科の教材研究

国語科では、子供たちが自分の思いや願いを生かし、主体的にかかわれるような子供の側に立った「教材研究」の充実が大切である。例えば、低学年の場合であれば、子供の読みの対象である教科書教材を教師自身が繰り返し音読したり、書き写しをしたりしながら、子供たちが興味や関心をもったり、わくわくドキドキするような表現箇所や内容をたくさん発見しておくことである。また、子供たちが一層身近に感じたり、一層興味や関心をもてるように、主たる教材に関連する素材を複数教材化して、楽しく紹介することも必要である。

そして、子供たちがわくわくドキドキしながら学習する過程で身に付けることのできる目標、学習内容や方法などを明確にしながら、子供たちが身に付けた学習内容や方法をどんどん活用できるように「本時の学習指導案」、各学期の単元指導計画等を作成することである。

そのためには、子供の側に立った「教材研究」の内容を、例えば、次のように示すことも一つの工夫である。（『大草原のローラ』、第4学年）

中心教材『大草原のローラ』を一読し、魅かれた登場人物についての感想を書いた後、『雪わたり』などの他の物語作品と比べながら、作品の特徴を話し合う。感動的な物語であるにも関わらず、その淡々とした語り口に、子供たちは「粗筋のような文章だ。」とか「会話文が少なく、物足りない。」などという感想をもつだろう。

そこで、教師作成の簡単な物語「ある5年生の一日」とその物語を脚色した作品と読み比べるとどうだろうか。子供たちは脚色した作品が生き生きしていることに気付くだろう。その上で今度は、脚色した作品の人物設定を換えて（主人公の女の子を親切な子とした場合といじわるな子とした場合）演じてみせる。子供たちは、人物の設定如何で物語がまったく変わってしまうという面白さと不思議さに気付くであろう。

劇をするということの大好きな子供たちである。登場人物の生き方を読み取りながら、この教材の詳しく書かれていない部分を自分たちの想像を生かして物語を創作する「ドラマ作り」を目標とすることで、意欲的に学習に取り組むことができると考えた。

（註1）

ここで、着目したいことは、教師が子供たちの側に立ち、子供たちが主体的に教科書教材である『大草原のローラ』に取り組めるように、①「他の物語作品と比べながら、作品の特徴を話し合う」、②「教師作成の簡単な物語「ある5年生の一日」とその物語を脚色した作品と読み比べる」、教師自身が脚色した作品を③「演じてみせる」等の工夫をしていることである。そして、④「劇をするということの大好きな子供たち」のよさを生かして、子供たちが⑤「ドラマ作り」を自分たちの目標としたことであろう。

また、これらの教材化を通して、先生は、「～感想をもつだろう。」、「面白さと不思議さに気付くであろう。」と、子供たちの関心や意欲、思いや願いを大切にしているのである。このように、子供たちが関心や興味をもって意欲的に教科書教材に取り組むための子供の側に立った「教材研究」が、小学校国語科の重要な実践課題である。

その二つは、子供たちが自分のよさや可能性を発揮しながら、自分らしく「学習内容を確実に身に付ける」ための「個に応じた指導」を計画し、展開するためには、子供たちがこれまでの国語科の授業で楽しく学習したり、身に付けた既習の学習内容や方法などを大づかみ（系統的）に示すことである。

第2学年の「国語科の学習では、「時間的な順序、場面の移り変わり、事柄の順序などを考えながら内容を読み取ること。」が重点目標になっている。

これまでに「ふきのとう」「くまさん」では、場面の様子を想像しながら読み、会話文や繰り返しの表現に着目して内容を読み取ってきた。

本単元では、主人公「スイミー」の心情が、行動や周りの情景とともに、どの様に揺れ動いていくのかを音読の気付きから読み取らせたい。

一の場面では「広い海」「小さな魚」「楽しくくらしていた。」など、様子を詳しく表す言葉に着目し、なぜ、強く読むのかを話し合い、様子を想像させたい。それから、挿絵の魚たちは、どんなことをして楽しく暮らしていたのかを考えながら、イメージを広げていきたい。～略～
(註2)

このように、単元指導計画では、各学年の重点目標を明確にして、第2学年では、前の単元である「ふきのとう」「くまさん」で身に付けた学習内容や方法等を積極的に活用して本単元の「スイミー」に子供たちが主体的、意欲的に取り組めるように工夫することが大切である。

その三つは、子供たちが自分のよさや可能性を発揮しながら、自分らしく「学習内容を確実に身に付ける」ことの「個に応じた指導」を継続的に支援し、評価するためには、各学年の目標及び内容に応じて、単元の系列と年間指導計画との関係を、次のように明確にしておく必要がある(註3)。

単元の系統

	1 学期			2 学期		3 学期	
	ふきのとう	スイミー	王さま出かけましょう	えいっ	お手紙	力太郎	スーホの白い馬
《理 解》							
ウ、文章の内容を考えながら音読すること。	○	○	○	○	○	○	○
エ、時間的な順序、場面の移り変わり、事柄の順序などを考えながら、内容を読み取ること。	○	○	○	○	○	○	○
カ、人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読むこと。	○	○	○	○	○	○	○
《表 現》							
ア、相手の話の内容を受けて話したり、自分から進んで話すこと。				○	■	■	○
イ、事柄の順序を考え、整理して話すこと。				○			○
ウ、書こうとする題材について必要な事柄を募めること。		○	○			○	
エ、見聞したこと、経験したことなどについて順序を整理して文章を書くこと。			○	○	○	■	○
オ、事柄の順序を考えながら語と語や文と文との続き方に注意して文章を書くこと。		○	○	■	■	○	○
キ、正しく視写したり、聴写したりすること。	○	○	■	■	○	■	○
《言語事項》							
ア、(ア)発音に注意して、はっきりと話すこと	●	●	●	●	●	●	●
(イ)姿勢、口形などに注意して発声すること。	●	●	●	●	●	●	●
(ウ)声の大きさや速さに気をつけて話すこと。	●	●	●	●	●	●	●
ウ、(ウ)かぎ（「」）の使い方を理解し、文章の中で適切に使うこと。	●	●	●	●	●	●	●
エ、(イ)語句の性質や役割に関心を持つこと	●	●	●	●	●	●	●
(ウ)言葉の響きに関心を持つこと	●	●	●	●	●	●	●
オ、(ア)文の中における主語と述語との関係及び修飾と被修飾との関係に注意すること。	●	●	●	●	●	●	●
カ、(ア)敬体の文章に慣れること。	●	●	●	●	●	●	●

3. 子供の側に立つ国語科の学習指導計画

「個に応じた指導」を構想、具体化するためには、子供たち一人一人の思いや願いを具体的に取り上げた単元指導計画の工夫改善が必要である。たとえば、従来の学習指導計画では、単元指導計画の1～2時間を当てて、「・全文を読み通し、学習の見通しをもつ。／・全文を読み、粗筋の大体をつかむ。／・心に残ったことを簡単な文章（初発の感想として）にまとめる。／・各場面の読み取りのめあてをつくる。」と示されることが多く見られたようである。このような取り組み方（示し方）で、どの単元でも（どの学期、どの学年でも）展開することは、ややもすると子供たち一人一人の思いや願いを十分に取り上げることなく、教材内容を一方的に子供たちに理解させたり、受容させたりすることになりがちである。

これに対して、「個に応じた指導」を構想、具体化するためには、次のような学習内容や活動を具体的に単元指導計画に位置付けることも工夫の一つである。（註4）

「・おもしろそうだ／・どうしてだろう／・ふしぎだな」 →教材との出会い①

「・調べたい／・書いてみたい／・読んでみたい」 →願いをもつ②

「・やってみよう／・わからない／・内容や方法を考えよう」 →見通しをもつ③

子供たちが①、②、③のような学習内容や活動を展開するためには、教師は子供たち一人一人が「教材との出会い」→「願いをもつ」→「見通しをもつ」ことを温かく共感的に理解したり、よく相談相手になったりすることが基盤となる。そのためには子供たち一人一人と対話をしたり、同じような思いや願いをもった子供たちと話し合ったり、学習計画について具体的な助言や提案をする場面と時間を確保し、単元指導計画に位置付ける必要がある。

さらに続けて、次のような学習内容や活動も「個に応じた指導」には大切である。

「・自分の考えでやってみよう／・友達の考えも聞いてみよう」 →追究する④

「・自分の考えをまとめてみよう／・友達の考えも参考にしよう」 →確かめる⑤

「作品やノートに仕上げよう／・自己評価やまとめをしよう」 →願いの実現⑥

子供たちの思いや願いを実現するためには、自分らしい主体的な学習活動とともに、友達との相互学習や全員で学習する学級学習も必要となってくる。このような子供たちの学習活動を、自分の思いや願いを追究したり、実現したりする過程として把握すると、「個に応じた指導」には、子供たちがこれまで自分らしく身に付けた国語の力をどんどん発揮しながら自分の思いや願いを実現することを支援する、教師の支援活動でもある。

このことから、「個に応じた指導」には、例えば、子供たち一人一人の教材との出会い→願いを持つ→見通しをもつ→追究する→確かめる→願いの実現を目指すという自己実現の過程と、この過程を子供の側に立って、共感的に理解し、支援するという教師の評価活動と表裏一体になっているという考え方に立つことが大切である。

4. 子供の側に立つ国語科の学習指導案の工夫

子供たち一人一人の自己実現の過程を日々の国語科授業として展開するには、「個に応じた指導」を学習指導の基本とすることである。そのためには、指導と評価を生かすような日々の「本時の学習指導案」を構想する必要がある。例えば、次のような「本時の学習指導案」（「インタビューをしよう」、第5学年、目標——細かい点にも注意して話の内容を正確に聞き

取ったり、話し手の意図を理解し、自分の感想や意見をまとめてみよう。)では、どこを・どのように大切にしたり、工夫したりすればよいであろうか。

(1)「本時の学習指導案」——導入部を中心に

過 程	学 習 活 動 ・ 内 容	指 導 と 評 価 の 工 夫
・ 出 合 ・ 願 い を も つ ／ ・ 見 ・ 通 追 し 究 を す る つ	1 インタビューの仕方について前時までの学習内容を話し合う。 (5分) どのインタビューでも、質問する人が、必ず工夫していることはなんだろう。	(本単元のために作成した録音テープを用意する。) ・相手の話のある部分を受けて、「それは、どういうことですか?」「それは、どうしてですか?」という箇所をじっくり聞き取れるようにする。
	2 先生へのインタビューから、もっと詳しく聞きたいことを具体的に質問できるようにする。 さらに詳しく聞きたいことはなんだろう。そのためには、どのように尋ねたらよいだろうか。 ・詳しく尋ねたい内容をもつ。 ・その尋ね方を考えたり、工夫する。 ・先生からの答えを聞き取る。	・質問に対する先生の答えを、カセットレコーダーで録音し、詳しく聞き取りたい箇所を繰り返し聞き取れるようにする。 ・尋ねたい箇所が複数の場合は、それぞれについてどのように尋ねるのかを考えたり、そのよさを認めたりする。 ・不安そうな子供には声をかけたり、相談にのったりして自分の取り組みをしっかりとめるようにする。(註5)

この「本時の学習指導案」の導入部のように、一つに、「個に応じた指導」を具体化するためには、「どのインタビューでも、質問する人が、必ず工夫していることはなんだろう。」というように、教材との出会いを通して子供たち一人一人の興味や関心、気付きや発見、疑問や課題を中心とする自分の思いや願いをもてるようにすることである。そのためには、子供たち一人一人が聞き耳を立てたり、詳しく聞きたくなるような話題や題材を用意したり、詳しく聞き取るための工夫がはっきり聞き取れるように「カセットテープレコーダーを活用」できるような教材研究も重要な課題となる。

特に、音声言語の指導の場合は、該当する教科書教材を読むことだけでは、例えば、「相手や場に応じて適切な言葉を使い、それらの状況を考えて話す。」「(A 表現 ア)などの目標を実現することは困難である。この意味で、教科書の「教材研究」とともに、子供たちの聞きたくなるような、話したくなるような話題や題材を用意できる日々の「教材開発」が必要である。

二つに、「個に応じた指導」には、「さらに詳しく聞きたいことはなんだろう。そのためには、どのように尋ねたらよいだろうか。」という意欲的で主体的な学習活動をしっかり位置付けることである。こうした主体的な学習活動を推進するには、子供たち一人一人がどのように考えたり(判断したり)、想像したりしたのか。そこから、なにを・どのように尋ねようとしたのか。どこを・どのようにすればもっと楽しく尋ねられるのかななどを共感的に理解したり、支援

したりすることが必要である。それが、「個に応じた指導」であり、指導と評価の一本化であろう。

三つに、こうした「個に応じた指導」は、子供たち一人一人の主体的な取り組みや自分らしい工夫を計画的・継続的に紹介したりすることでもあり、学級全員のものにすることもある。それは、子供たちがお互いのよさを認め合ったり、自分の学習のよさに自信を持ったり具体的なヒントをつかんだりすることにもなる。そのためには、目標に直結する子供たち一人一人の主体的な学習活動のよさや可能性を共感的に理解し、さわやかに支援できる「場面と時間」をしっかりと「本時の学習指導案」に確保することである。

(2) 「本時の学習指導案」——展開部から終末部を中心に

／ 確 か め る	<p>3 指名された子供のインタビューを聞いて、そのよさを感想として発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューとして大切な内容の選び方や尋ね方の工夫について話し合う。 <p>(2と3で10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指名された子供のインタビューと自分の考え方や工夫との同異に気付いたり、友達の考え方や工夫のよさを認めたりする。 ・自分の考え方の理由や根拠をもてるようにノートをまとったり、話し合いをする。 ・その際、ノートの内容を確認したり、話し合いに参加したりして、自信をもてるようにする。
／ ・ 願 ・ い 新 の し 実 現 願 い	<p>4 グループ別に、友達にインタビューする。</p> <p>(15分)</p> <p>5 自分のインタビューでよく出来たことや今後の課題について発表する。</p> <p>(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ところで（話は変わりますが）」と、相手に断って、新しい話題に進めることも取り上げるようにする。
／ ・ 次 時 の 予 告	<div data-bbox="422 1265 949 1355" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>よく出来たことや自分のこれからの課題はなんだろう。</p> </div> <p>6 友達へのインタビューをもとに新聞を作る計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手や内容を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳しく尋ねる内容や尋ね方の工夫について自分なりによく出来たこと、苦労したこと、今後の課題についてノートにまとめて発表できるようにする。 <p style="text-align: right;">(註6)</p>

本時は、単元指導計画の展開部に位置しており、子供たち一人一人はインタビューの目的や方法については、自分なりに理解を深めている。そして、子供たちにとって、3の「・インタビューとして大切な内容の選び方や尋ね方の工夫について話し合う。」ことをもとに、4の「グループ別に、友達にインタビューをする。」ことが中心となる学習活動となる。この学習活動によって、子供たちは自分のよさや可能性を具体的に発揮できるのである。と同時に、教師は、「個に応じた指導」も展開できるのである。

とすると、本時の目標に直結するような「個に応じた指導」を展開するには、「本時の学習

指導案」以上の「場面と時間」を確保して、4の「グループ別」の学習活動のよさをグループごとに共感的に理解し、具体的に支援することも一つの工夫である。それは、教師が「グループ別」の学習活動のよさを具体的に認めたり、なにを・どのようにすればもっと楽しくインタビューできるかを話し合ったりすることである。時には、子供たちが迷ったり、困難と感じている場合は、一緒に考えたり、調べたりして温かく支援することも大切である。

5. 子供たちのよさを発揮するための学習指導案の工夫

国語科の授業で、子供たち一人一人が自分の言葉で自分らしく考えたり、想像したり、表現したり、行動できるためには、そのための「時間と場面」が必要である。それは、子供たち一人一人にとって安心して、楽しく、快適に自分らしさを発揮できる「時間と場面」であり、その実現のためには、教師の温かい共感的理解が何よりも大切である。

このような子供の側に立つ教師の温かい共感的理解を基盤に、従来の国語科の学習指導案の様式（それは、教えることの効率を追求したような、教える側に立った学習指導案であったかもしれない。）から脱皮し、子供たち一人一人が自分の言葉で自分らしく考えたり、想像したり、表現したり、行動できるための「時間と場面」が一層確保できるような学習指導案を構築する必要がある。それは、新しい学力観に立つ国語科授業の工夫であり、子供たち一人一人のよさを発揮するための学習指導案の改善でもある。

具体的には、例えば、子供たちは、前時の学習指導（前時の学習指導案）で、どのような興味や関心、意欲をもって、どのような学習内容や方法等を身に付けたのか。そして、「本時の学習指導案」では、前時（既習）の学習内容や方法等を生かしたり、活用したりしながら、更にどのような興味や関心、意欲をもって、どのような学習内容や方法等を獲得しようとするのか。このことを中心に、「本時の学習指導案」に位置付けることも一つの工夫である。

一つの参考例を示すと、次のようである。（註7）

前時の既習内容	○ ○ ○			
	学 習 活 動	学 習 内 容	指導と評価の創意工夫	時
1	○○○する。 <div></div>			
2				
3				
4				
次習時の内容 学				

子供たち一人一人が身に付けた既習の内容や方法等を積極的に生かしたり、活用したりする「本時の学習指導案」(註8)の工夫は、前時、本時、次時という連続性のある学習指導計画の最小単位を確立することである。それは、子供たち一人一人の関心・意欲・態度を中心とした学習意識を従来以上に大切にすることであり、子供たち一人一人が自分の言葉で自分らしく考えたり、想像したり、表現したり、行動できるための「時間と場面」を確保することである。

それは、学習の仕方が分かり、どんどんできるようになる学習指導案であり、さわやかな自信をもって自分らしく自分の考えを発表できるような学習指導案でもある。また、従来、例えば、ある学習内容を取り扱うのに7時間単位必要であった学習指導計画を、子供の側に立って5単位時間程度で実現する(——「学校週五日制」に対応する)ことを可能にする「授業の設計図」である。(註9)

註1、2 「平成5年度 山形市国語実践講座資料」(第5学年 国語科学習指導案、池田友子教諭)に拠る。記して感謝の意を表したい。

註3 「研究収録 国語科 わかる喜びを味わう授業の創造」(埼玉県幸手市幸手小学校、仁部前明校長)に拠る。記して感謝の意を表したい。

註4 「『自分をつくる』力を育てる——願いをもって学び続ける学習——」
(静岡大学教育学部附属小学校・研究紀要、1993年、細谷泰茲校長、21～26ページ)
を参考にさせていただいた。記して、感謝の意を表したい。

註5、6 山口県小野田市立高泊小学校(山崎孝史教諭、河口 茂校長)の学習指導案に拠る。
記して、感謝の意を表したい。

註7 平成5年度国語科研修会(埼玉県南教育センター、山口裕久指導主事)の資料に拠る。記して感謝の意を表したい。

註8 「新しい学力観の実現をめざす国語科授業の創造」(小森 茂、1993年、明治図書)参照。

註9 本稿は、「小学校国語科の新しい授業と展開」のために、「個に応じた国語科学習指導」(『初等教育資料』、小森 茂、平成5年12月号、No605)に加筆したものである。